

日本語の三者会話に見られる会話の編み込み構造

(ブレイド・ストラクチャー) と共創性

—他者の発話の繰り返し・パラフレーズの分析から—

○町 沙恵子 (日本女子大学)

“Braid Structure” and Co-Creativity in Triadic Conversations in Japanese:

From the Analysis of Repetition and Paraphrasing of Other’s Words

○Saeko Machi (Japan Women’s University)

要約: 本研究では、日本語の三者会話にみられる他者の発話の繰り返し及びパラフレーズの二つの言語実践に着目する。日本語では、話者たちが会話内でそれぞれの発話に容易にアクセスし、それを自己の発話に気軽に組み込み、三者間で次々と発話のターンを回しながら共に一つの話を作り上げていく現象が頻繁に起こる。この様子は、三本の糸を編み込んで一本の束を作る三つ編み(ブレイド)を連想させる。これは一人の話し手が語り、他の者は聞く側に徹する、という英語的な会話構造とは大きく異なるものである。本発表では数例の会話データと共に日本語話者が作り上げる会話の編み込み構造を提示し、日本語会話の共創的あり方の理解に貢献することを目指す。

キーワード: 談話分析、三者会話、繰り返し、パラフレーズ、編み込み構造

Keywords: Discourse analysis, triadic conversation, repetition, paraphrasing, braid structure

1 はじめに

一般的に、会話は話者たちが相互に協力して作り上げるものという概念があり、先行研究でも“collective activity”(Duranti, 1986)、“joint production”(Tannen, 1989)、“mutually constructed”(Ferrara, 1994)といった用語で表されている。これはどの言語においてもある程度は当てはまることであるが、実際の会話において話者同士がどの程度積極的に関わっていくのか、例えば静かに聞き手に徹している方がいいのか、あるいはこまめにフィードバックをした方がいいのか、といった、会話を作り上げるスタイルは言語ごとに異なる。日英語の三者会話のトランスクリプトを比較するとその差は一目瞭然で、日本語は英語に比べて三人の話者の発話が複雑に絡み合っていることがわかる。

本研究では、複雑かつ密接に絡み合った日本語の会話スタイルを「編み込み構造」(ブレイド・ストラクチャー)とし、その形成に大いに貢献する二つの言語現象、繰り返しとパラフレーズを分析する。分析と編み込み構造モデルの提示を通して、日本語話者がいかに共創的に会話を展開するかについての理解を目指す。

2 日本語会話のスタイルについて

日英語の会話スタイルの相違については多くの比較研究が行われているが、中でも注目すべきが、水谷(1993)による「共話」である。共話とはあいづちを頻繁にうち、相手の言おうとすることを察し、時にお互いの未完成の文を完成させながら話者たちが二人で発話を作る、という日本語によく見られる会話スタイルである。これは話者たちが個々に自分の発話を完結させて、相手が話しているときは黙って聞く、という英語の「対話」と対照をなす。水谷(1993)では対話と共話がそれぞれ二本の線で以下の様にモデル化されている。



Fig.1, 対話のモデル (英語)



Fig.2, 共話のモデル (日本語)

対話・共話の概念とこのモデルは、日英語の相違点をわかりやすく表現している一方で、日本語の発話の複雑で密接な絡み合いを表現しきれていない。本研究では、共話の概念をもとに、日本語会話の密接な絡み合いを表した編み込み構造モデルを提示することで、日本語会話のあり方をより正確に解説することを試みる。

3 データ

本研究ではテレビ番組『ボクらの時代』（フジテレビ制作）から抽出した三つの会話を分析する。いずれの会話も互いに熟知した三人の話者がカフェなどのリラックスした環境で自由に会話を行っており、その様子が番組として収録されている。トピックの選択や会話の展開も三人に任されている。会話1は28～30歳の男性三名、会話2は26～34歳までの男性三名、会話3は30歳の女性三名で構成されている。各会話の収録時間は22分で、著者が書き起こしを行い、動画とトランスクリプトを用いて分析を行った。

4 分析

4.1 繰り返し

日本語会話には他者の発話の繰り返しが頻繁に見られる(Machi, 2007, 2012)。相手の発話をそのまま、またはほぼそのままの形式で自分の発話に取込み発話するという行為は、まさに発話を編む(weave)というイメージにつながる(Tannen, 1989)。

繰り返しの様々な機能の中でも日本語会話において特に顕著なのが、話者たちの発話や考え、更には話者同士を結びつける機能である。言い換えると繰り返しは会話において細かい別々のパーツを結びつけ、大きな全体を作るつなぎ目の役割をしていると言える。

例1. 「来年すぐ」

- 01 A: いつ頃（結婚）したいとかってのはあるの？
02 B: 来年
03 C: 来[年？
04 A: [来年？
05 B: 来年. [来年結婚して、妊娠するの
06 A: [おう
08 C: え、来年もうすぐだよ
09 B: 来年すぐ
10 C: 2017年
11 A: 17年、もうすぐ来る[よ
12 B: [17年だね、そう、来年結婚
の目処が立つといいなって感じ
13 A: [ああ、えー

- 14 C: [あー、なるほど、えー
15 B: そう、ぼんぼんいかないと
16 C: ぼんぼんだよ、ほんと[に
17 A: [うん、早すぎる

例1では三人の話者が頻繁に繰り返しをしながらお互いの発話を結び付け、協調的に会話を展開している。頻発する繰り返しの繰り返しにより、話者たちの焦りの気持ちが高められ共有されているのがわかる。

本稿ではスペースの都合で長い例を掲載できないが、会話のトピックのシフト時にも繰り返しが起こる。一人の話者が新しいトピックを導入した際に、他の者がその発話の一部を繰り返して新トピックを受け入れ、そこからまた新しい方向に会話が展開してくといった現象も多く見られる。

話者たちの発話の結びつけと新トピックの展開に加え、繰り返しは話者間の結束を強化する機能を持つ。

例2. 「共通点」

- 01 O: なんか、兄弟とかも、ね、さっき、たまたま
02 R: そう
03 O: 末っ子、末っ子ですか？
04 R: 末っ子、末っ子
05 O: 末っ子ですか？
06 K: 末っ子
07 O: 末っ子です
----省略---
11 O: 二人兄弟ですか？
12 R: 兄貴、二人兄弟
13 K: 二人兄弟
14 O: 二人兄弟
15 K: で、二月生まれ？
16 O: [二月生まれ
17 R: [二月生まれ、[あそうなの、すごいなこれ
18 K: [全員二月生まれ

例2では話者三人が自分たちの共通点について語っている。注目すべきは、会話内で飛び交う「末っ子ですか」「二人兄弟？」「二月生まれ？」といった質問に、話者たちが「うん」「そう」などの簡潔な返答ではなく、繰り返しの形式で回答していることである。このように相手と同じ表現形式を用いることで、話者たちは自分たちの親近感や同一性を強調することができ、その結果、これらの繰り返しは質問に回答するのみでなく、話者三人の連帯を強めるものとなる。三人がテンポ良く繰り返しを発することで、話題の展開と同時に、結束を築き上げているのがわかる。

上記の会話例に見られるように、繰り返しは日本語の三者会話において頻発し、1) 話者たちの発話を結びつけ、2) 新トピックを展開させ、3) 話者同士の結束を強化する、といった機能を果たす。一人の話者の発話とそのままの形式で他の者の発話に取り込まれ、発話と発話、話者と話者が結び付けられていく会話スタイルは三本の糸を編む様子を類似していると言える。

4.2 パラフレーズ

パラフレーズと繰り返しには類似点も多いが、他者の発話をほぼ同じ形式で発する繰り返しに対し、パラフレーズは表現が多少言い換えられたり、パラフレーザーの解釈が入れられていたり、内容の関連性を保ちつつも、もとの形式に変化が加えられている。先行研究では、会話におけるパラフレーズの肯定的な機能として、意味の共同構築や、相手への理解、同意、注意力(“attentiveness”)の表明(Tabensky, 2001)などが挙げられている。また日本語のパラフレーズを分析した Machi (2018)によると、会話内のパラフレーズには、1)相手の発話の補強、2)パラフレーザーの理解度の確認、3)相手の発話内容の明瞭化などの機能がある。これらは話者が積極的に相互理解と共感を求めていることを示しており、その結果、話者間の結束を築き上げる。

例 3. 「現実逃避」

- 01 K: ドラクエ
02 T: [ああ、ゲームだ
03 H: [は一、やるんだね、ゲーム
04 T: 俺もやる
---省略---
10 T: でも、仕事のこと考えなくていいんだもん
ね[、その間
11 K: [そう、一回逃避するっていうのがさ
12 T: そう、一回逃避するのが大事なの

例 3 では、T と K が共通の趣味であるゲームについて、その利点を語っている。10T の発話を聞き、11K がそれをパラフレーズしているが、これは単に同意を表すだけでなく、「(現実) 逃避」というびつたりな表現を用いて T の発話を補強し、その結果 2 人の話者の結束を強めている。注目すべきは、12T が 11K の発話を繰り返して同意と共感を示している点であり、このパラフレーズと繰り返しの組み合わせで相互理解と結束がさらに強められていることがわかる。

日本語会話ではパラフレーズは肯定的な反応を引き出すことが多い。それはパラフレーザーが相手の意図や思いをよく把握しているからというだけではない。

後者も前者の協力的な参加態度に好意的に反応しようとしていると考えられる。

例 4. 「結婚するまでに」

- 01 R: 3 年半、あ、知り合ってからすごい長かったけど
[ね、うん
02 O: [あ、そう、そうですね
03 R: 付き合ってから[...
04 K: [ああ、なるほどね、友だちという
[か、そういう期間があった
05 R: [それはすごい長かった、うん

例 5. 「目が茶色い人」

- 01 B: あと、目が茶色い人が好き
02 C: [目が茶色い人？
03 A: [ええ、すごい[細かい
04 C: [ちょっと色素薄い、[みたいな人？
05 B: [そうそうそうそう

例 4 では 04K が 01,03R の発話を、例 5 では 04C が 01B の発話を、自分の解釈を含めてパラフレーズし、その結果もとの発話内容をより理解しやすくしている。これに対し、05R も 05B も「うん」、「そう」などの同意表現を用いて肯定的な反応をしている。このようにパラフレーズは会話において協調的に機能して話者たちの発話と考えを結び付ける。パラフレーズが起こるとき、話者たちは「話し手」「聞き手」という対照的な関係ではなく「共に語る者」(“co-speakers”)という関係になる。

パラフレーズを用いて話者たちがお互いの発話を組み込んで協力的に会話を展開していく様子は、4.1 と同様に三本の糸を編む様子を連想させる。

5 日本語会話の編み込み構造 (ブレイド・ストラクチャー)

二つの言語現象の分析から、日本語会話では話者同士が容易にお互いの発話にアクセスし、それをそのままの形式で (繰り返し) または形式を変えて (パラフレーズ) 自己の発話に取り込むことで、発話や考えをつなげ、共に会話を展開させていくということが明らかになった。またこの過程で話者同士の距離も縮まり、結束が強まっていく。繰り返しとパラフレーズは近接して起こることもしばしばで、日本語話者は自発的にお互いの発話を絡め合わせていくような印象を受ける。ここに三つ編みを連想させる会話の構造が見られる。

水谷(1993)の共話の概念は日本語の協調的な会話スタイルの特徴をよく捉えているものの、英語と同じ二本の直線を用いた図からは話者たちの発話がいかに密

接に絡み合っているかが伝わりにくい。4.1,4.2 に見られる、話者たちの発話が絡み合い、組み込まれて会話を作り上げていく様子を表すためには柔軟性のある曲線を用いる方が適している。三者会話の展開は以下のような編み込み構造に例えて表すことができる。

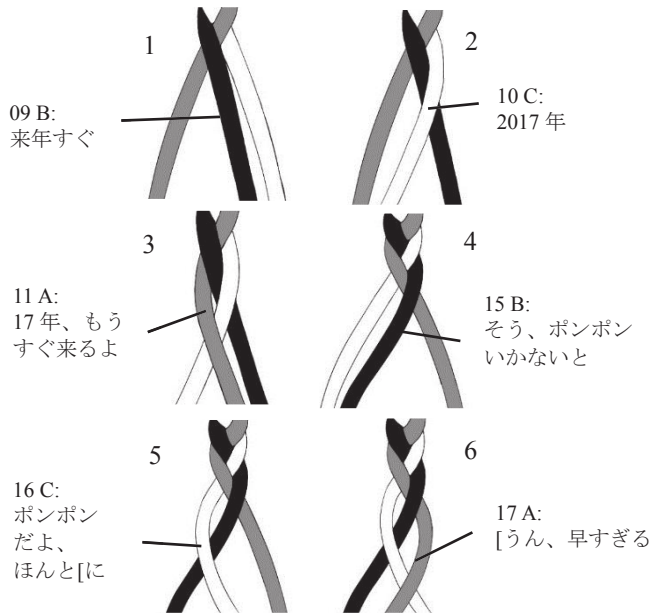


Fig.3, 日本語の編み込み構造 (会話例 1 より。12-14 行はスペースの都合上省略)

実際の会話では話者が決まった順で話すことはないものの、この図のように発話同士が繰り返しやパラフレーズを通して繋がっていき、話者が協同して会話を構築していく様子が見られる。このように密接に絡み合っていくために、誰の発話なのかといった区別や、誰が主な話し手なのか、といった区別もつかなくなるほどである。この発話と発話、そして話者同士の非分離性は先行研究(Machi, 2007; Fujii, 2016; Ueno 2016 ほか)でも指摘されており、このことから日本語の会話スタイルの図式化には直線ではなく、交わったり編み込むことができる曲線が適していると言える。

データの会話からは、話者たちが編み込み構造会話の友好的で活気ある雰囲気を楽しんでいる印象を受ける。これは話者たちが会話を通して結束を築き、居心地良く感じていることに加えて、彼らが会話の即興的な展開を楽しんでいるからだと考えられる。一人の話者が自分の話を計画的に語るのと異なり、複数の話者が共創(co-create)する会話では、会話のトピックがどう展開していくのかは予測不能で、思いもよらない方向に話が進むこともある。しかしそれが他者と話すことの醍醐味であり、刺激でもある。これらの理由から、日本語会話では話者が協同して語り、そして自由にトピックが展開し得る会話スタイルが好まれ、編み込み構造の会話が多く見られると考えられる。

6 まとめ

本研究では、日本語の三者会話に頻繁に見られる繰り返しとパラフレーズの二つの言語現象に注目して、会話における機能を分析した。分析の結果、日本語話者は繰り返しやパラフレーズを通してお互いの発話に容易にアクセスし、それらをつなぎ合わせることで会話を共に作り上げていくという、共創的な会話展開を行っていることがわかった。またその過程で、話者同士の結束も強められていることがわかった。話者たちの発話が密接に絡まり、つながり、一つの会話の流れを作り上げていく様子は三本の糸を編む様子を連想させる。そこから本研究では曲線を用いた編み込み構造(ブレイド・ストラクチャー)を提示し、日本語の会話スタイルを説明することを試みた。

参考文献

- [Duranti 1986] Duranti, Alessandro. "The audience as co-author: An introduction." *Text* 6 (3): 239-248.
- [Ferrara 1994] Ferrara, Kathleen Warden. *Therapeutic Ways with Words*. New York: Oxford University Press.
- [Fujii 2016] Fujii, Yoko. "Ba-oriented representations of the world: From clause structures to interaction." Paper presented at Soliolinguistic Symposium 21.
- [Machi 2007] Machi, Saeko. "My/your Story" vs. "our story": Repetition in English and Japanese Conversation. Master's Thesis presented to the English Department of The Graduate School of Japan Women's University.
- [Machi 2012] "How repetition works in Japanese and English conversation: Introducing different cultural orientations towards conversation." *The English Linguistic Society of Japan JELS* 29: 260-266.
- [Machi 2018] "Paraphrasing the 'other': Connecting participants in Japanese conversation." *Journal of Faculty of Humanities* 67: 39-53. Japan Women's University.
- [水谷 1993] 水谷信子:「共話から対話へ」『日本語学』12(4), 4-10.
- [Tabensky 2001] Tabensky, Alexis. "Gesture and speech rephrasings in conversation" *Gesture* 1(2): 213-235.
- [Tannen 1989] Tannen, Deborah. *Talking voices: Repetition, Dialogue, and Imagery in Conversational Discourse*. Cambridge: Cambridge University Press.
- [Ueno 2016] Ueno, Kishiko. 2016. "Speaking as Parts of a Whole: Discourse Interpretation from Ba-based Thinking." Ph.D. Thesis presented to the English Department of The Graduate School of Japan Women's University.